

## 大学生の時間的信念に及ぼす自尊心の影響

新見直子・永瀬由里子・松田由希子・前田健一

Effects of self-esteem on time beliefs of university students

Naoko Niimi, Yuriko Nagase, Yukiko Matsuda, and Kenichi Maeda

本研究では、大学生 163 名を対象に自尊心尺度と時間的信念尺度を実施した。先行研究に基づいて自尊心の 3 つの下位尺度（身体、学業、家族）が時間的信念の 2 つの下位尺度（将来主義、現在主義）に影響するというモデルを仮定し、共分散構造分析を使用して検討を行った。その結果、十分な適合度指標が得られ、学業領域と家族領域の自尊心が将来主義に対して有意な正の影響を、身体領域の自尊心が現在主義に対して有意な負の影響を及ぼしていた。これらの結果は、自尊心の異なる領域が大学生の将来主義と現在主義に関連することを示唆する。

キーワード：時間的信念、自尊心、大学生

### 問 題

高等学校における進路指導について考えると、大学センター試験の導入以降、偏差値で示される合格ラインによって大学の序列化がすすみ、偏差値に依存した進学指導が行われてきた(中條, 2004)。このような進学指導を受けてきた者の中には、大学に合格することのみを目標として大学に入学したために、大学生活の中で目標を見失い不適応を示す者もいる。彼らが目標を見失った理由として、現在の事柄のみにとらわれて将来についての見通しを立てなかったことがあげられる。将来のことを考えて目的意識をもって行動するなど、将来についての見通しを立てることは、時間的展望として概念化され研究されている。時間的展望は、「ある一定の時点における個人の心理学的過去および未来の見解の総体」(Lewin, 1951, p.75) と定義されている。時間的展望に関する研究では、将来のことを考えて行動している人（例えば、将来就きたい職業に就くために、現在勉強している人）と、将来のことをあまり考えずに行動している人（今が楽しければ、それでよいと思って過ごす人）との個人差を記述したり説明したりしている。本研究では、時間的展望、特に未来に対する時間的展望の個人差に影響を与える要因について検討することにした。

個人の時間的展望に影響を及ぼす主要な要因として、自分の行動すべてに一貫して関与する比較的安定した統制感があげられる(杉山, 1994)。比較的安定した統制感とは、自分の行動がある成功をもたらすという期待(内的統制)と自分の行動以外の外的な力が結果を左右するという期待(外的統制)を両極とする連続体として捉えられるものである。杉山・神田(1996)は、高い内的統制感を獲得している者ほど自分の未来を肯定的に捉える傾向にあると仮定して、大学生を対象に、統

制感が時間的展望に与える傾向について検討している。杉山・神田（1996）の研究では、時間的展望を未来に対する態度を測定する「目標志向」と「希望」および現在に対する態度を測定する「現在の充実感」の3下位尺度を使用して測定した。これらの3下位尺度は、「過去・現在・未来に対する感情評価のこと、あるいは、将来または過去の事象に対する肯定的あるいは否定的評価の総体」（白井，1997，p.56）として定義される時間的展望体験を測定するものである。単回帰分析の結果、得点が高いほど内的帰属傾向を表す統制感が、時間的展望体験の3下位尺度すべてに有意な正の影響を与えていた。この結果から、自分の行動の原因を内的に帰属させる者ほど、現在や未来を肯定的に捉える傾向にあることが示唆された。唐沢（2005）は、成功の原因を内的に帰属することによって自尊心が高められると指摘している。杉山・神田（1996）で時間的展望と統制感の間に正の関連があったのは、成功経験を内的に帰属する者ほど自尊心が高いため、未来や現在の時間的展望体験を肯定的に捉えたと解釈することも可能である。そこで本研究では、時間的展望の個人差に影響を与える要因として自尊心を取り上げることにした。

自尊心とは、自分は勉強ができる、自分には親友がいる、など自己概念に含まれている情報を評価することである（Pope, McHale, & Craighead, 1988）。Pope et al.（1988）によると、自尊心は社会、学業、家庭、身体イメージ、全般的自尊心の5つの領域から捉えることが有益である。社会領域の自尊心は、友達としての他者が自分をどのようにみているかを自分で評価することである。学業領域の自尊心は、生徒としての自分を評価することである。家族領域の自尊心は、家族の一員としての自分についての感情のことである。身体イメージ領域の自尊心は、自分の外見と運動能力の組み合わせを評価することである。全般的自尊心は、自己についての全体的な評価で、自己すべての評価に基づいたものである。これら5領域の自尊心のうち全般的自尊心は、他の4つの自尊心を総合的に評価したものであり内容が重複すると考えられるため、本研究では全般的自尊心を除く4つの自尊心について検討することにした。なお本研究では、Pope et al.（1988）の作成した「子ども用5領域自尊心尺度」を参考に、本研究で対象とする大学生の自尊心を測定する4領域（学業、友人、家族、身体）から構成される尺度を独自に作成した。

ところで、杉山・神田（1996）は、時間的展望を測定する尺度として時間に対する時間的展望体験尺度を使用していた。しかし、本研究では以下のような理由から、「時間的展望に対する個人の信念体系のことであり、未来と現在の関係の認知つまり時間的展望に対するメタ認知」（白井，1997）と定義される時間的信念を測定する尺度を使用することにした。大学生の不適應の原因の1つとして、大学入学後に大学生生活の目標を失ってしまうことが考えられる。この生活の目標ということに着目すると、将来の目標は、現在や過去を振り返って立てるものであり、将来と現在や過去を結びつけているか否かが重要であると示唆される。そこで、過去・現在・将来に対する感情を測定する時間的態度尺度よりも、未来と現在のつながりの認知、未来と現在の重要性の順序づけを測定する時間的信念尺度の方が、より自尊心と関連するのではないかと考えられる。そこで、本研究では、白井（1993）の作成した時間的信念尺度を一部修正、削除した尺度を使用することにした。

本研究の目的は、成功の原因を内的に帰属すること（内的統制）によって高められると考えられる自尊心が時間的信念に影響を与えているか否かを検討することである。具体的には、4領域（学

業、友人、家族、身体)の自尊心が時間的信念に影響するモデルを構成して、共分散構造分析によってモデルの検討を行う。杉山・神田(1996)と唐沢(2005)から、自尊心が高い者ほど現在と将来を結びつけて考える傾向(将来主義)が強く、現在と将来を切り離して考える傾向(現在主義)が弱いと予想される。

## 方 法

**対象者** 大学2,3年生163名(男性57名,女性106名)を対象者とした。対象者の平均年齢は20.06歳( $SD=1.02$ )であった。

**実施時期** 2006年10月中旬に実施した。

**手続き** 心理学の授業を受講している大学生に質問紙を配布し回答を依頼した。質問紙はすべてその場で回収した。所要時間は約15分であった。

**調査内容** 以下の2つの尺度質問を使用した。

1. 自尊心尺度: Pope et al. (1988)の作成した子ども用5領域自尊心尺度を参考にして、4因子(学業、友人、家族、身体)を想定した20項目から構成される尺度を独自に作成して使用した。各項目が自分にあてはまると思う程度について5段階(1: いつもそう思わない, 2: ほとんどそう思わない, 3: 人並みにそう思う, 4: 時々そう思う, 5: いつもそう思う)で評定を求めた。逆転項目の得点を変換した後、因子分析を行った。固有値の推移から3因子解が妥当であると判断されたので、3因子を仮定した因子分析(最尤法, プロマックス回転)を行った。なお、因子分析においては、当該因子に.35以上の因子付加量があることと当該因子に対する付加量とその他の因子に対する付加量の差が0.1以上であることを基準とした。分析の結果、9項目(学業2項目, 友人5項目, 家族2項目)が除外され、身体(5項目), 学業(3項目), 家族(3項目)の3因子が抽出された(Table 1参照)。各因子の $\alpha$ 係数は、身体で $\alpha=.76$ , 学業で $\alpha=.79$ , 家族で $\alpha=.74$ であった。因子別に1項目あたりの平均得点を算出し、その得点を各下位尺度得点とした。したがって、得点範囲は1点から5点の範囲にわたる。

2. 時間的信念尺度: 白井(1993)の時間的信念尺度の項目を一部修正または削除して独自に作成した8項目から構成される尺度を使用した。各項目内容の考え方に賛成または反対する程度について5段階(1: 非常に反対, 2: 反対, 3: どちらともいえない, 4: 賛成, 5: 非常に賛成)で評定を求めた。固有値の推移から2因子解が妥当であると判断されたので、2因子を仮定した因子分析(最尤法, プロマックス回転)を行った。なお、因子分析を行う際の基準は自尊心尺度の因子分析と同様であった。分析の結果、1項目(将来主義)が除外され、将来主義(3項目), 現在主義(4項目)の2因子が抽出された(Table 2参照)。各因子の $\alpha$ 係数は、将来主義で $\alpha=.56$ , 現在主義で $\alpha=.63$ であった。因子別に1項目あたりの平均得点を算出し、その得点を各下位尺度得点とした。したがって、得点範囲は1点から5点の範囲にわたる。

Table1 自尊心尺度の因子分析結果

質問項目	F1	F2	F3	$h^2$
<b>F1. 身体</b>				
2 私は、自分の顔立ちが気に入っている	.71	.04	.07	.54
14 私は、自分の目つき、顔つきが嫌いである *	.68	.04	.05	.49
18 私は、もっと他の人のように、かっこよかったらいいのと思う *	.64	-.16	-.06	.36
6 私は、身体のスタイルはよい方だと思う	.58	.11	-.03	.40
10 私は、今よりもやせたい(あるいは太りたい)と思う *	.52	-.07	-.06	.25
<b>F2. 学業</b>				
17 これまでの大学での成績評価は、他の学生よりも良い方だと思う	-.16	.96	-.05	.81
1 私は、大学における自分の学業成績を情けないと思う *	-.00	.71	.04	.50
9 私は、大学の授業や大学での勉学に自信をもっている	.27	.56	.03	.51
<b>F3. 家族</b>				
7 家族と一緒にいると、私は楽しい気分になれる	-.10	-.04	.83	.69
15 私の家族は、私にとって良い家族だと思う	.05	-.05	.69	.47
3 家族にとって、私は大事な一員だと思う	.03	.10	.60	.39
因子寄与(%)	22.73	14.15	12.13	49.01
因子間相関	F1	—	.41	.03
	F2	—	—	.12

注1. \*は逆転項目をあらわす。

注2.  $\chi^2(25) = 62.55, p < .001$ .

注3. 除外した項目は、「4. 私は、もっと友達をつくるのが上手だったらいいのと思う\* (友人)」、「5. 私は、大学の授業の内容がもっとよく理解できたらいいのと思う\* (学業)」、「8. 私は、自分が友達になりたいと思う人と、うまく友達になれる (友人)」、「11. 私は、まあまあ、いい娘 (いい息子) だと思う (家族)」、「12. 私は、たくさん友達がいる方だと思う (友人)」、「13. 私は、大学の勉学や研究をするのは全く苦手である\* (学業)」、「16. 友達にとって、私は、よい友達であると思う (友人)」、「19. 両親は、私のことを心の中では誇りにしていると思う (家族)」、「20. 私は、困ったときに相談できる友達が少ないと思う\* (友人)」の9項目であった。

Table2 時間的信念尺度の因子分析結果

質問項目	F1	F2	$h^2$
<b>F1. 将来主義</b>			
3 自分の夢をかなえるために、がんばるのが人生だと思う	.88	.22	.69
1 今をしっかり生きることが、将来を明るくすると思う	.47	-.14	.28
5 今がつかなくても、将来のためなら、がまんすべきだと思う	.42	.01	.18
<b>F2. 現在主義</b>			
4 今の生活は、将来の生活と関係ないと思う	-.07	.59	.38
8 将来のために、今、努力するのは、バカらしいと思う	-.36	.56	.25
2 今が楽しければ、それでよいと思う	.22	.53	.58
6 どうなるのか分からない先のことを考えても、しかたがないと思う	.05	.50	.24
因子寄与(%)	23.61	13.40	37.01
因子間相関	F1	—	-.34

注1.  $\chi^2(8) = 13.71, p = .09$ .

注2. 除外した項目は、「7. 今していることの大切さは、後になってから、分かるものだと思う (将来主義)」であった。

## 結果

まず自尊心尺度と時間的信念尺度の5つの下位尺度得点間の相関係数を算出した(Table3 参照)。その結果、自尊心の下位尺度である身体、学業、家族の各得点はいずれも、将来主義得点と正の、

現在主義得点と負の相関を示した。これらの相関係数から、本研究で想定したモデルは妥当であると判断した。

因果モデルに使用する観測変数は、各尺度の因子分析において当該因子に対する付加量が高い順に3項目ずつを算出した。身体領域、学業領域、家族領域の自尊心がそれぞれ将来主義と現在主義のいずれに対しても影響をもつようにモデルを構成して共分散構造分析を行った（分析ソフトはAmos7.0を使用した）。その結果、十分な適合度指標が得られた（ $GFI = .91$ ,  $AGFI = .86$ ,  $CFI = .91$ ,  $AIC = 209.10$ ）。しかし、パス係数をみると、「身体」から「将来主義」へのパス（ $-.06, p = .57$ ）, 「学業」および「家族」から「現在主義」へのパス（順に,  $-.14, p = .21$ ;  $-.17, p = .11$ ）がいずれも有意ではなかった。そこで、有意ではなかったこれらのパスを除外して再び共分散構造分析を行ったところ、 $AIC$ の値が低下したのでこのモデルを採用することにした（Figure1 参照； $GFI = .90$ ,  $AGFI = .87$ ,  $CFI = .91$ ,  $AIC = 204.15$ ）。また、いずれのパス係数も有意または有意傾向であった。

Table3 各下位尺度得点間の相関係数

	1	2	3	4	5
1 身体	—				
2 学業	.32 **	—			
3 家族	-.01	.11	—		
4 将来主義	.05	.17 *	.24 **	—	
5 現在主義	-.12	-.13	-.06	-.19 *	—

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$ 。

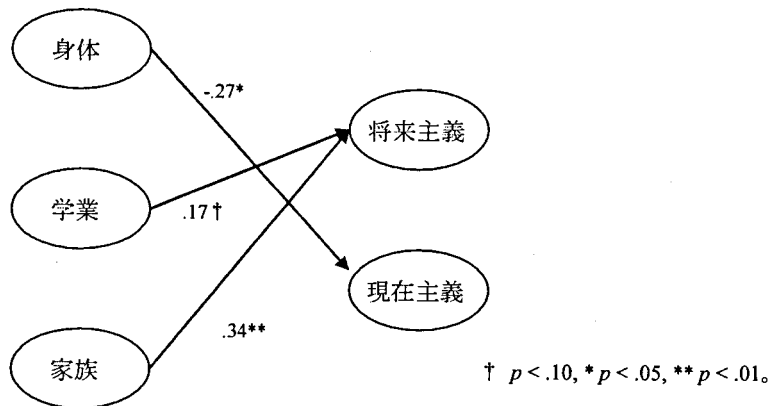


Figure1 最終的に採用したモデル  
(観測変数と誤差項は省略した。)

### 考察

本研究の目的は、自尊心が時間的信念に有意な影響を与えるか否かについて共分散構造分析を使用して検討することであった。分析の結果、杉山・神田（1996）と唐沢（2005）から示唆されたよ

うに、本研究で測定した3領域の自尊心はいずれも、時間的信念に対して有意な影響を示した。さらに、本研究では、身体的領域の自尊心は、現在主義に対して有意な負の影響を与え、学業領域と家族領域の自尊心は、将来主義に対して有意な正の影響を与えることが明らかになった。これらの結果は、身体的領域の自尊心が低い者ほど現在主義傾向を示し、学業領域と家族領域の自尊心が高い者ほど未来のために備えようとする将来主義傾向にあることを示している。つまり、本研究の結果から、自尊心は時間的展望に対して影響力をもつが、その影響は自尊心の領域によって異なることが示唆された。本研究では、杉山・神田(1996)と唐沢(2005)に基づいて、自尊心が統制感と時間的信念の関連を媒介していることを想定して自尊心と時間的信念の関連のみを検討した。一部の関連しか検討しなかったが、今後は想定した媒介過程が実際に存在するの否かを検討する必要があるだろう。

最後に本研究の問題点として、本研究で使用した時間的信念の尺度の $\alpha$ 係数が十分に高い値ではなく、因子分析の結果 $\chi^2$ 値が有意傾向であったことがあげられる。これらの結果は、時間的信念尺度の信頼性が十分ではないことを示唆している。そこで今後は、この尺度をさらに修正して改善していく必要があるだろう。また、時間的展望の概念には狭義の概念(例えば、時間的信念、時間的指向性、時間的態度)が複数あるので、類似した概念間の整理をする必要もあるだろう。

#### 引用文献

- 中條和光(2004). 生徒指導をどう行うか 松田文子・高橋 超(編) 生きる力が育つ生徒指導と進路指導 北大路書房 p. 220.
- 唐沢かおり(2005). 成功と失敗の原因帰属 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁樹算男(編) 心理学辞典 有斐閣 p. 484.
- Lewin, K. (1951). *Field theory in social science: Selected theoretical papers*. New York: Haiper and Brother (レヴィン K. 猪股 佐登留(訳) (1979). 社会科学における場の理論 増補版 誠信書房)
- Pope, A. W., McHale, S. M., & Craighead, W. E. (1988). *Self-esteem enhancement with children and adolescent*. Pergamon Press. (ホープ A. W., ミッキヘイル S. E., クレイヘッド W.E. 佐藤正二・佐藤容子・前田健一(訳) (1993). 自尊心の発達と認知的行動療法: 子どもの自信・自立・自主性をたかめる 岩崎学術出版社)
- 白井利明(1993). 時間的信念尺度の検討に関する研究 大阪教育大学紀要(第IV部門), 42, 51-57.
- 白井利明(1997). 時間的展望の生涯発達心理学 第1版 勁草書房
- 杉山 成(1994). 中学生における一般的統制感と時間的展望の関連性 教育心理学研究, 42, 415-420.
- 杉山 成・神田信彦(1996). 青年期における一般的統制感と時間的展望: アパシー傾向との関連性 教育心理学研究, 44, 418-424.

付記: 本研究は、第2著者の卒業論文を再分析し、加筆・修正したものです。